

平成 29 年 1 月 20 日

電子入札コアシステム利用者 様

一般財団法人日本建設情報総合センター

平成 28 年度「電子入札コアシステム事業改善方針」の改定について（報告）

平成 23 年 1 月 21 日に策定（平成 27 年 1 月 23 日改定）した「電子入札コアシステム事業改善方針」を改定したので、ご報告いたします。

1. 事業改善方針の実施状況等

(1) 電子入札コアシステム事業改善方針（平成 27 年 1 月 23 日改定）

1) コアシステム機能の充実

引き続き、平成 28 年 3 月末に予定しているコアシステム V6 のリリースに向けた設計及び開発を行う。

また、利用団体より収集した要望のうち V6 で採用されなかった要望、今後新たに発生する要望等について、V6 後のコアシステムの機能の充実に向け、順次対応を検討する。

2) 処理速度等の性能向上

処理速度の改善方針については、費用対効果を考慮しつつ引き続き実現性等の検討を行う。

3) 料金体系等

小規模利用のお客様の電子入札利用促進、共同利用参加市町村の要望対応、コアシステム開発費用の負担の公平性の確保の観点から以下の対応を行う。

- ① 少額利用特例料金を、新たな料金区分を設ける。（H27 対応）
- ② JACIC が共同利用参加市町村から直接問合せを受けるサービスを平成 27 年度に試行する。（H27 対応）
- ③ V6 で電子入札コアシステムを初めて利用されるお客様を対象とした新たな料金を設ける。（H28 対応）

また、コアシステム V6 リリース後の料金について、引き続き、保守業務の効率化による保守費用の縮減とともに、電子入札コアシステムサービス開始時からの経緯や電子入札コアシステム利用状況の変化を踏まえ、機能と負担の関係やお客様間の負担の公平性等の観点から総合的な検討を行う。

4) 情報セキュリティ対応

セキュリティ対応について、随時、調査・検討・動作確認等を実施し、コアシステムの安定稼働のために利用団体への情報提供を実施する。

また、暗号アルゴリズム移行について、新暗号への完全切り替え（フェーズ3）に向け、サポートを継続していく。

(2) 事業改善方針の対応状況

1) コアシステム機能の充実

利用団体の要望を基に工事・業務、物品・役務の機能強化を行ったコアシステムV6を平成28年3月10日にリリースした。

また、V6後のコアシステムの機能の充実に向け、利用団体からの意見・要望の整理・分析を行った。

2) 処理速度等の性能向上

コアシステムV6については、画面遷移時のICカードアクセス方法の見直しを行い、処理速度を改善した。

3) 料金体系等

料金体系等について以下の対応を行った。

①少額利用特例料金の新料金区分について27年度から運用を開始した。

②共同利用参加市町村から直接問合せを受けるサービスを平成27年度に試行したが、利用実績がないことから平成27年度の試行をもって終了した。

③V6で電子入札コアシステムを初めて利用されるお客様を対象とした新料金を平成27年度に設定し運用を開始した。

また、今後の料金体系については、Java Plug-in 廃止対応の検討を行っていることから、その費用が確定した後、お客様間の負担の公平性等の観点から総合的な検討を行うこととした。

4) 情報セキュリティの強化

Java やブラウザ等の新バージョンに対する動作確認等を迅速に行い、脆弱性の改善を図った。

また、総務省の「新たな自治体情報セキュリティ対策の抜本的強化に向けて」に関わる対応として、コアシステムにおける検討を踏まえた対応方針を決定するとともに自治体間での情報共有を促進するためのアンケートを実施した。

(3) 事業改善方針の改定

電子入札コアシステム事業改善方針（平成29年1月20日改定）

1) コアシステム機能の充実

V6以降のコアシステムの機能の充実に向け、利用団体より収集した要望のうち、ニーズが高く、なおかつ利用団体に共通した課題の解決につながる要望等について順次対応を検討する。

2) 処理速度等の性能向上

コアシステムV6において一定の性能向上が図られたことをもって対応完了とする。

今後、さらなる処理速度等の性能向上が見込まれる改善方法が発見された場合は、費用対効果を考慮しつつ実現可能性等の検討を再開する。

3) 料金体系等

Java Plug-in 廃止対応後の料金について、お客様間の負担の公平性確保等の観点から総合的な検討を行う。

4) 情報セキュリティ対応

セキュリティ対応について、随時、調査・検討・動作確認等を実施し、コアシステムの安定稼働のために利用団体への情報提供を実施する。

また、暗号アルゴリズム移行について、新暗号への完全切り替え（フェーズ3）に向け、サポートを継続していく。

事業改善方針及び対応状況一覧

項目	事業改善方針(H27.1.23改定)	平成28年度の対応状況	事業改善方針(H29.1.20改定)
1) コアシステム機能の充実	引き続き、平成28年3月末に予定しているコアシステムV6のリリースに向けた設計及び開発を行う。 また、利用団体より収集した要望のうちV6で採用されなかった要望、今後新たに発生する要望等について、V6後のコアシステムの機能の充実に向け、順次対応を検討する。	利用団体の要望を基に工事・業務、物品・役務の機能強化を行ったコアシステムV6を平成28年3月10日にリリースした。 また、V6後のコアシステムの機能の充実に向け、利用団体からの意見・要望の整理・分析を行った。	V6以降のコアシステムの機能の充実に向け、利用団体より収集した要望のうち、ニーズが高く、なおかつ利用団体に共通した課題の解決につながる要望等について順次対応を検討する。
2) 処理速度等の性能向上	処理速度の改善方針については、費用対効果を考慮しつつ引き続き実現性等の検討を行う。	コアシステムV6については、画面遷移時のICカードアクセス方法の見直しを行い、処理速度を改善した。	コアシステムV6において一定の性能向上が図られたことをもって対応完了とする。 今後、さらなる処理速度等の性能向上が見込まれる改善方法が発見された場合は、費用対効果を考慮しつつ実現可能性等の検討を再開する。
3) 料金体系等	小規模利用のお客様の電子入札利用促進、共同利用参加市町村の要望対応、コアシステム開発費用の負担の公平性の確保の観点から以下の対応を行う。 ①少額利用特例料金に、新たな料金区分を設ける。(H27対応) ②JACICが共同利用参加市町村から直接問合せを受けるサービスを平成27年度に試行する。(H27対応) ③V6で電子入札コアシステムを初めて利用されるお客様を対象とした新たな料金を設ける。(H28対応) また、コアシステムV6リリース後の料金について、引き続き、保守業務の効率化による保守費用の縮減とともに、電子入札コアシステムサービス開始時からの経緯や電子入札コアシステム利用状況の変化を踏まえ、機能と負担の関係やお客様間の負担の公平性等の観点から総合的な検討を行う。	料金体系等について以下の対応を行った。 ①少額利用特例料金の新料金区分について27年度から運用を開始した。 ②共同利用参加市町村から直接問合せを受けるサービスを平成27年度に試行したが、利用実績がないことから平成27年度の試行をもって終了した。 ③V6で電子入札コアシステムを初めて利用されるお客様を対象とした新料金を平成27年度に設定し運用を開始した。 また、今後の料金体系については、Java Plug-in廃止対応の検討を行っていることから、その費用が確定した後、お客様間の負担の公平性等の観点から総合的な検討を行うこととした。	Java Plug-in廃止対応後の料金について、お客様間の負担の公平性確保等の観点から総合的な検討を行う。
4) 情報セキュリティ対応	セキュリティ対応について、随時、調査・検討・動作確認等を実施し、コアシステムの安定稼働のために利用団体への情報提供を実施する。 また、暗号アルゴリズム移行について、新暗号への完全切り替え(フェーズ3)に向け、サポートを継続していく。	Javaやブラウザ等の新バージョンに対する動作確認等を迅速に行い、脆弱性の改善を図った。 また、総務省の「新たな自治体情報セキュリティ対策の抜本的強化に向けて」に関わる対応として、コアシステムにおける検討を踏まえた対応方針を決定するとともに自治体間での情報共有を促進するためのアンケートを実施した。	セキュリティ対応について、随時、調査・検討・動作確認等を実施し、コアシステムの安定稼働のために利用団体への情報提供を実施する。 また、暗号アルゴリズム移行について、新暗号への完全切り替え(フェーズ3)に向け、サポートを継続していく。